



—東地中海地域ニュース—

トルコ：ウィキリークスによる米国外交文書の暴露

(29日付現地各紙)

1. 28日、ウィキリークス・ウェブサイトにより入手され、米ニューヨーク・タイムズ紙、仏ル・モンド氏、西エル・パイス紙、独デア・シューピーゲル紙が報じた米国外交機密文書の内容のうち、トルコに関し注目されるものは、以下の通りである。公正発展党（AKP）政権のイスラム的傾向に関する否定的評価が目立つ。
  - (1) トルコでシャリーアが導入される可能性は低いが、イスラムへと傾斜しており、EU入りは十中八九不可能である。このため、トルコの同盟国としての信頼性にも疑問符がつく。
  - (2) エルドアン首相は頑固、過敏で、非常に権威的な統治を行う父権主義的な人物。また、完璧主義者だが独裁者ではない。彼の弱点は、自信過剰と計り知れない貪欲さである。
  - (3) AKP幹部のかなりの部分は、何らかのイスラム教団に属し、エルドアン首相もイスラム主義的なアジェンダを有している。また、同首相は、イスラム系銀行家を多くの重要ポストに任命している。エルドアン首相は、情報のほぼ全てをイスラム系新聞から得ており、側近のアドバイザー達はおべっか使いと横柄なもので固められている。
  - (4) ダーヴトオウル外相は、エルドアン首相を通じてイスラム的影響力を行使している。ダーヴトオウル外相は特に危険な人物で、そのネオ・オスマン主義的ビジョンが危惧される。また、同外相は、アンカラの視野を越えた国際政治をよく分かっていない。
  - (5) AKP顧問の一人は、1683年のウィーン包囲のリターンマッチを行い、アンダルス（イベリア半島のイスラム勢力の旧領土）を取り返すつもりだと述べた。
2. 29日朝、訪問先のリビアへの出発前、記者会見を開いたエルドアン首相は、ウィキリークスの暴露について聞かれ、「まず暴露の背景を知る必要がある。ウィキリークスの信頼性には疑問もある。その後、我々は評価を行い、必要な発表を行う」と述べた。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799